

豊障連、4年間の体験報告まとめ

豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」を運営する豊橋障害者(児)団体連合協議会(豊障連)は、毎年九月に会館内で開いている避難所体験の報告を冊子にまとめた。同館事務長の本田菜子さん(54)は「地域防災の取り組みに役立ててほしい」と呼び掛けている。

(中山梓)

障害者避難所 課題を冊子に

さくらピアは、災害 豊障連が指定管理者と 知的障害者、精神障
時に高齢者や障害者を 害者と家族、地域住民
受け入れる福祉避難所 毎年開いている。 らが参加。応急手当て
の一つ。避難所体験は、 体験には身体障害者 などの防災講座をはじめ
「障害者は地域の訓
練になかなか参加でき
ず、諦めるしかない」と
思っている人もいた」

め、夜は体育館で宿泊
した。
冊子には、四年間の
アンケート結果や避難
所体験を終えての考
察、検討課題を各年ご
とに収録。一二年の報
告では「部屋やトイレ
がバリアフリーだから
といって、それだけで
福祉避難所が機能する
と考えてはいけない」
と記した。避難所体験
や防災訓練の様子を収
めた写真も掲載した。



①避難所体験をまとめた冊子をアピールする本田さん＝豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」で ②障害者向けの避難所体験の様子(豊障連提供)



訓練写真も掲載「地域防災に役立てて」

と本田さん。「少しでも
訓練の経験があれば、
実際に災害が起きた時
のつらさを減らすこと
ができる」と話す。
昨年は初めて停電を
想定した夜間の避難訓
練を行い、暗闇の影響
やライトの必要性を確
認した。

豊橋市内の障害者手
帳所持者は約一万六千
人。東日本大震災で
は、耳の聞こえない人
が避難所内の情報を得
られなかったり、介助
が必要な人がトイレに
行けなかったりする問
題があった。

本田さんは「福祉避
難所にはなっている
が、中身はまだ整備さ
れていない。体験に参
加した人には、ここで
の経験を地域に持ち帰
って、役立ててほし
い」と話している。

二千部発行。A4
判、百頁。希望者には
無料配布する。問い合
わせは、さくらピア＝
電05332(53)31
5311。